

日本風景街道だより

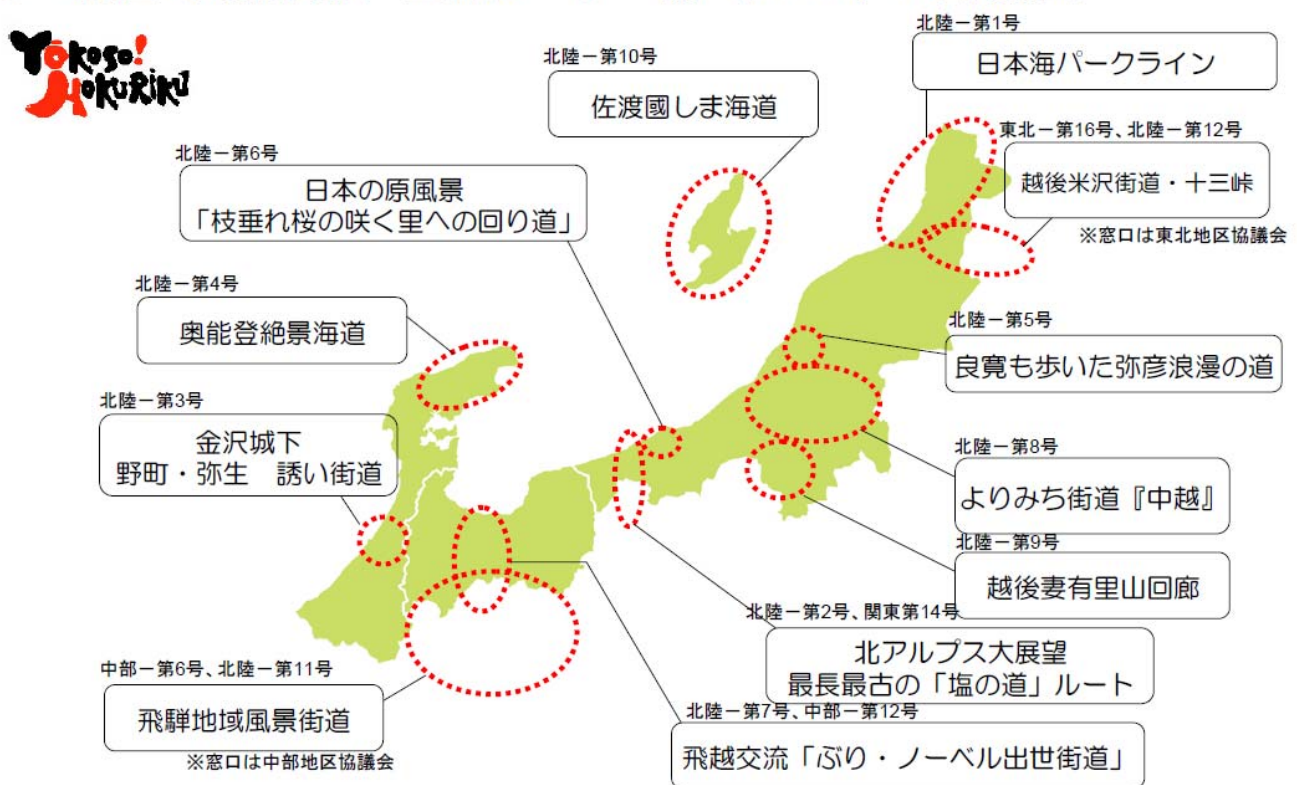
2009年増刊号

第4回 北陸風景街道交流会議（北陸風景街道協議会）

1. 北陸 風景街道

北陸地域における風景街道は、平成19年10月より登録がスタートし、平成21年10月現在で、新潟県8ルート、富山県2ルート、石川県2ルートの合計12ルートが登録され、各地で活動が展開されています。

● 北陸 風景街道 登録ルート一覧（H21年10月現在）



北陸地域 合計 12ルート
(新潟県内8ルート、富山県内2ルート、石川県内2ルート)

2. 「北陸 風景街道交流会議」とは

北陸風景街道協議会では、支援の一貫として北陸地域における風景街道登録ルートを対象に継続的な活動に繋げること、より活発な活動とすることを目的として、平成18年度から「北陸 風景街道交流会議」を年1回開催しています。

今回、第4回目となった本会議には各ルートで活動する団体が一同に会し、活動内容などについて5分ずつ発表いただきました。また、「地域活性化」、「組織運営」、「広報・PR」の3つのテーマを設定し、パネラーの方々も含め、ディスカッションを行いました。今回、コメンテーターとして北海道シーニックバイウェイ「支笏洞爺ニセコルート」で活動されている泉谷清さん、東北風景街道「奥州街道 恩故知新の道」、「釜石『鉄のみち』」で活動されている大村宏平さん、地域活性化に詳しい(社)雪センターの酒井孝さん、またコーディネーターとして(株)富士通総研の臼井純子さんをお招きし、議論を深めました。また、アドバイザーとして日本風景街道戦略会議委員で都市ジャーナリストの森野美徳さんにご参加いただきました。

本会議は、各地域で取り組まれている活動から得られる有用な知見を共有するなど、大変有意義な場となっています。また、北陸地域内においてより強いネットワークを形成できたとともに、お越し頂いたパネリストの方々とも新たなネットワークをつくることができました。今後も切磋琢磨しながら、元気な北陸地域を目指して活動を展開していきたいと思っております。

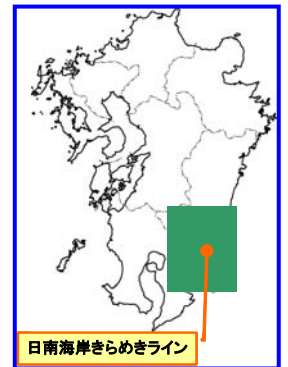
第4回 北陸風景街道交流会議の様子



日南海岸きらめきライン全体勉強会（九州風景街道推進会議）

日南海岸きらめきラインは、宮崎市、日南市、串間市を結ぶ国道220号と活動エリアを結ぶ国道222号、国道448号において「うつくしの道づくり」、「もてなしの道づくり」、「神話と歴史の道づくり」の3つの道づくりを柱に活動しているルートです。

10月10日(土)に日南海岸きらめきライン全体勉強会が、串間市の都井岬にて行われました。勉強会は、(1)宮崎県内に焦点を当てて国道448号と県南の観光戦略について、と(2)マクロ的な視点で風景街道と観光政策について、をテーマに県内外の有識者・観光産業関係者が意見を交わしました。会場には約50人が訪れて、きらめきライン沿線の振興策に役立てようと意見に聴き入りました。今回はこの勉強会の模様をご報告します。

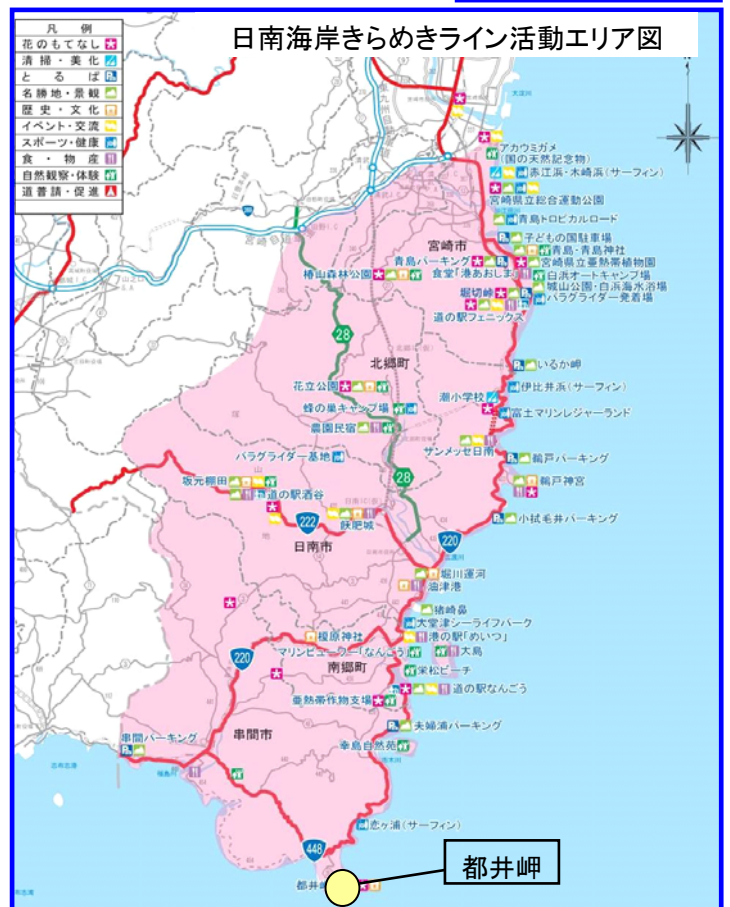


第1部「国道448号をつないだ観光・交流の展望」

コーディネーター: 吉武哲信氏(宮崎大学准教授)
 パネリスト: 原文宏氏((社)北海道開発技術センター理事)・臼井純子氏((株)富士通総研取締役)・川崎眞治氏(R448を語ろう会・都井岬ビジターセンター館長)・檀原宏太郎氏(同・(有)海洋レジャー企画代表取締役)

■問題提起

最初に、「R448を語ろう会」で「もう一度観光客でにぎわう元気な都井岬になりたい」と活動されている川崎氏と、日南市南郷地区で活動されている檀原氏から、串間市と日南市南郷地区の観光についてや、宮崎駅～南郷駅で10月10日からの土日祝日に運行を始めた観光列車「海幸山幸」について説明がありました。この中で、「宮崎空港から入ってきた県外客や宮崎市からの観光客を、いかに呼び込むか」や「せっかく列車で日南市まで来た客を、いかに串間市まで引っ張り込むか」などが課題であり、その要因として日南市から串間市までつながる公共交通が少ないことや、列車やバスで串間市や南郷町まで来てレンタカー営業所はほとんどないことについての説明がありました。



▲勉強会が開催された都井岬に生息する野生馬

■「観光客の分析を」

これらの問い掛けに白井氏は、「誰を相手にしているのか明確にすることが必要」としてマーケティングが重要であることを指摘され、「まずは観光客を分析して、自分たちが何を求められているのかを判断する」ために必ずアンケートを実施するよう助言されました。

■ツアー繁盛のカギは

北海道シーニックバイウェイで活躍されている原氏からは、北海道での経験を元に「最近ではマストツーリズム離れが進んでいる。少人数で訪れる観光客にどんなサービスを提供するかが風景街道の課題」との話がありました。原氏は、北海道で成功した例として恵庭市の個人宅のガーデニングを見学するツアーなどを挙げて、▽地域ガイドが自分の視線で話すこと▽体験や食事に「手作り感」があること▽良心的な価格設定、を成功の秘訣として話されました。また、地域ガイドについては「バスに乗っている時間は長く、車内での過ごし方は重要」と指摘し、地域の人だけが知っていたり、季節限定で出現する観光スポットを紹介することが有益であることや、▽広報が行き届かず認知されないこと▽需要予測が甘いこと、は失敗ケースの原因であるとの話がありました。さらに、「何回も、長く来てもらう仕掛けが必要」と指摘し、「観光受け入れ側としては、ストーリーを作ることが必要」として、北海道での具体的事例として、▽国道のゴミ拾いの後に果物狩りや地元博物館見学をすることで「ボランティア・観光」がセットとなる「清掃ツアー」▽バス代を企業の社会貢献活動費で賄い、バスで大学生が高齢者宅の多い地域に駆け付けて雪かきをする「除雪支援ツアー」などを紹介されました。

▼勉強会の様子



■地域作りの担い手は

さらに、地域づくりの担い手が不足している宮崎の状況について問題提起がありました。

これに対して、白井氏からは「観光には『よそ者、若者、ばか者』の3人が携わる」ものの「この3人ではどうしようもない」として、現金化を考えて事業を進める人が必須だと指摘。「夢やロマンを語る人と、それを現実化させる人の組み合わせが必要」であること、また、原氏からは、北海道内でも札幌など大都市圏に人材が偏在している現状を説明したうえで、これを打開するために「地域間でお互いに助け合い知恵を出している」との話がありました。

第2部「風景街道が果たす役割とこれからの観光政策」

コーディネーター：蘭田潤子氏（フリーアナウンサー）

パネリスト：石田東生氏（筑波大学教授）・笹森秀樹氏（国土交通省観光庁観光地域振興課長）・畑田英樹氏（(社)日南市観光協会事務局長）

■広域観光圏

笹森氏は、風景街道について語る中で観光庁が進める広域観光圏との関連性について説明されました。

その中で、福島・山形両県にまたがる「会津・米沢広域観光圏」の事例として、「会津で1泊、2泊目は米

沢」というように、圏内の別地域で2泊目を取ると半額になるサービスが紹介されました。個別地域が連携し、情報を共有して、お互いに客を送り合うことで、「観光客には自分の地域では体験させられなかったものを他地域で提供できる」と述べて、一見競争相手に見えても連携相手になりうることを説明されました。

笹森氏はまた、現在の日本の観光について「頑張る人にお任せになっていないか」と問題提起がありました。各地で普及しているボランティアガイドは無給であることも少なくないですが、▽プロ意識が希薄で勤務が続かない▽ガイドに「教えてやっている」という気持ちが芽生える▽観光客もガイドに疑問があっても「無料だから仕方がない」と指摘もできないおそれがあることから、「無償の活動には限界がある。一定の報酬は必要では」との話がありました。

■「口コミは有効」

石田氏は「観光客を呼び込む活動を訴えるのに確実なのは口コミ」と指摘され、その口コミを簡単に伝えられるのがインターネットだという話がありました。

地域によっては、ホームページをうまく作成できる人員がない場合もありますが、「観光では『専門家をいかに使うか』『使えるものは使う』という考えが重要」で、知り合いの学生に頼むのも一考と提案されました。ただ、こうした活動にも「一定報酬が必要」という考えは笹森氏と同じで、「日本で『ボランティア』といえば、無償というイメージがあるが、必要最低限のものは支払うべき」との話がありました。

■魅力ある地域づくりのためのキーワード

最後に3氏からキーワードを披露され、盛況のうちに勉強会を終了しました。今日頂いた助言や意見を参考にこれからも、『住んでよし、訪れてよし』の魅力あふれる日南海岸地域を目指し、取り組みを継続して行きたいと考えております。

3氏から披露されたキーワードとその心

畑田氏:「束ねる人」

事業全体をまとめる人の必要性を表した一言。

笹森氏:「協働 WIN-WIN」

異業種の皆さんと一緒に働き、達成感を得られるように。

石田氏:「楽しい継続」

地域振興は続けなければ意味がない。それでは続けるためには何が必要か。「縁があった人をどんどん使い、輪を広げることだ」という。一方で他地域や異業種の人を借りる場合には「何が欲しいのか」「どうありがたいのか」を明確に伝えることが肝心。

■終わりに

日南海岸きらめきラインでは、これまでもまち歩きをしやすくするための散策ルートの設定や通り名による道案内、自然と一体となった道路景観づくりなど様々な活動を積極的に行ってきています。今回の勉強会を通じて、各地域で活動されている人々や活動の輪が広がり、より一層、魅力あふれる地域になることが期待される所です。九州風景街道推進会議では、このような取り組みを広めることで九州の風景街道全体が魅力的なものとなるようにしていきたいと思っています。

▼日南市飫肥城下町



▼宮崎市堀切峠



- 飫肥城下町では、商店街を見て歩いて、おいしいものを堪能できる一挙両得のイベント「食べあるき・町あるき」を開催しています。飫肥に立ち寄られたときは、是非、「食べあるき・町あるき」を体験してみてください。

風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。

掲示板利用の登録や、日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	五十嵐光徳	011-709-2311(代表) (内線 5357)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	本木 雅信	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	川崎 浩之	048-601-3151(代表) (内線 4253)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	村下 剛	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	廣瀬 昌俊	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	竹井 賢二	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	角 秀俊	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	助田 豊治	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	中川 英一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	崎間 斉	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局地方道・環境課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>